

平成29年第1回大仙市議会臨時会

所 信 表 明

平成29年4月19日

大仙市長 老 松 博 行

平成29年第1回大仙市議会臨時会にあたり、所信表明の機会をいただきましたので、私の市政運営に対する思いの一端を申し述べさせていただきます。

去る4月9日に行われた市長選挙において、議員各位をはじめ、多くの市民の皆様のご支援をいただき、初当選の栄に浴し、大仙市長に就任させていただきました。この場をお借りいたしまして、深く感謝申し上げます。

市政の舵取り役を担わせていただくこととなり、初登庁から10日となりましたが、12年ぶりの市長交代でもあり、改めてその職責と使命の重大さに身の引き締まる思いであります。これまでの40年の行政経験を生かし、大仙市のさらなる発展に向け、誠心誠意、全力で取り組んでまいる所存であります。

議員各位をはじめ、市民の皆様の特段のご支援とご協力をお願い申し上げます。

さて、先日、秋田県の人口が4月1日現在で87年ぶりに100万人を割ったとの報道がありました。人口減少社会の到来と高齢社会の本格化は、大仙市や秋田県だけではなく全国の多くの地方都市にとって大きな問題であり、また、日本全体の構造的な問題でもあります。人口減少

問題に特効薬はないとされておりますが、毎年1千人程度の人口減少が続く本市にとりましては、迅速かつ的確な対応が急務であり、解決に向けた取組を一つ一つしっかりと進めていかなければならないものがあります。

平成27年度に策定した「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「雇用創出」、「移住・定住促進」、「子育て支援」、「地域コミュニティの維持」を基本目標に掲げており、その取組は、引き続き着実に進めてまいります。

私は、これまでの施策のうち評価の高いものについては継承しながらも、大仙市が次なるステージに飛躍していくためには、これまでにない新たな発想によるチャレンジが必要であると考えており、この思いを「明日の大仙を拓く新たなチャレンジ」として、大きく2つのまちづくりを進めてまいります。

1つが、「大仙市のすべての地域をすみずみまで元気にするまちづくり」、そしてもう1つが、「市民の皆様が住み良さを実感し、将来に希望が持てるまちづくり」であります。

大仙市の元気は各地域の元気から生まれます。各地域の特色を強みとして生かした取組を積極的に展開し、市全体を元気にするまちづくりを進めてまいります。

また、住み良さを実感できるまちづくりとして、各地域の身近な買い物や交通などの生活機能の拡充、普段の生活に関わる身近な道路、除雪などの生活基盤の整備にも力を注いでまいります。

このようなまちづくりを進めるにあたり、私は、選挙中掲げた公約のうち、特に次の6つの施策について重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

1つ目は、「地域の商工業振興と企業誘致強化」であります。

商工業などの産業振興は、地域経済を発展させ就業機会と所得をもたらし、若者の定住化にもつながる大仙市発展の原動力の一つであり、結婚や出産の機会の創出などにもつながる重要な要素であると考えます。

商業については、市民の暮らしを支え、地域ににぎわいと活力を創出する重要な都市機能であることから、様々な取組で活性化の後押しを行うとともに、商業サービスの要となる商店街等の振興や各地域における新規開店の支援、にぎわいづくりに向けた各種イベントの開催支援などを進めてまいります。

加えて、知名度が高い「大曲の花火」ブランドを最大限活用し、商品開発や創意工夫に富んだサービスの展開、販路拡大などにチャレンジ

してまいります。

工業については、設備投資に対する新たな支援制度の創設や、必要な資金需要に応える融資制度の充実、人手不足の解消に向けた雇用支援策の拡充などに取り組み、地元企業の発展と拡大を図ります。

また、トップセールスによる企業誘致活動に取り組むとともに、その武器となるきめ細かで充実した誘致支援制度の新設・拡充や企業進出の受け皿となる工業団地の整備を進めるなど、企業誘致実現に向けた積極的な施策を展開してまいりたいと考えております。

さらに、こうした取組とあわせ、多くの市民が望む働く場の確保についても、自ら各企業に足を運び、雇用枠確保の要請をさせていただくとともに、市の雇用支援策を充実させ、一人でも多くの就業に結びつけてまいります。

2つ目は、「攻めの『だいせん農業』の確立」であります。

私は、旧大曲市職員時代に農政課長を4年間務めたほか、家では農業を営んでいたことから、現在の農業を取り巻く情勢の厳しさは身をもって感じております。

農業については、本市の強みを生かし、J A秋田おばこをはじめ関係機関と連携しながら、未来を見据えた「攻め」の姿勢で政策を進めてまいります。

本市は、収穫量が新潟市に次ぐ全国第2位の米どころであり、稲作適地という強みを生かした米のブランド化推進のための良質米生産の後押しを行いつつ、大豆や枝豆、トマト、イチゴ、花きなどの園芸作物の振興による複合経営化を大胆に進めてまいります。

また、優れた農業の担い手育成や新規就農者の確保、中山間地農業への支援、ほ場整備の促進、畜産や林業の振興、6次産業化などをより一層進め、厳しい農業の現状を打開し、農業所得の向上と大仙ブランドの確立を目指してまいります。

3つ目は、「若者がチャレンジできる環境づくり」であります。

将来に希望を持てるまちをつくるためには、若者が夢を持ち、その夢の実現に向かってチャレンジできる環境づくりが必要であり、このことは、持続可能なまちづくりを進めるうえでも、大変重要であると考えております。

こうした観点から、商工業や農業、芸術文化、スポーツなど様々な分野において、若者が夢の実現に向かって飛び込んでいくことができるよう、若者の意見や声を反映させながら、起業支援や就農支援、ベンチャービジネスの育成支援など必要な環境づくりを行い、将来の大仙市を支える担い手の育成を推進してまいります。

4つ目は、「子育て・教育の充実」であります。

若者が将来に希望を持ち、「大仙市で暮らしたい」と思うことができる環境づくりを進め、若者の定住・定着を図るためには、子育て・教育の充実は重要な施策の一つであります。

本市は、子どもの医療や保健、児童福祉、学校教育などについて、県内でもトップクラスの水準にあると考えておりますが、その取組をさらに一歩進め、子育て世代のニーズにより即した、結婚、出産、子育て、就学後の教育に至るまでの切れ目のない支援の充実を図ってまいります。

とりわけ、保育サービスの充実については、女性がより活躍できる社会を構築していくためには欠かすことができない要素でありますので、待遇改善による保育士の安定的な確保等、待機児童ゼロの実現に向けた対策などに取り組んでまいります。

また、子どもたちの郷土に対する誇りや愛着を育む教育の推進に一層力を入れ、若者の定住やAターンに結びつけるきっかけとするほか、子どもたちの活躍を後押しするためのスポーツ少年団や部活動への支援の充実などを図り、地域の元気にもつなげてまいりたいと考えております。

5つ目は、「医療・福祉の充実」であります。

子どもから高齢者まで、すべての市民が健康で生き生きと安心して生活ができ、このまちで暮らすことの幸せや満足を実感できることは、私が目指すまちづくりの理想の姿であります。

少子高齢社会の今、子育て・教育の充実とあわせ、高齢者が豊富な経験や知識、技能を発揮し、地域の一員として活躍できる社会をつくることも重要であります。

そのために、高齢者自身が心豊かで生きがいを持ち、充実した人生を過ごすことができるよう、健康づくりや介護予防活動に身近な場所で積極的に取り組むことができる環境づくりを進めてまいります。

また、医療や介護が必要な状態になったとしても、できる限り住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるよう、医療、介護、予防、生活支援サービス等が途切れることなく、一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築も進めてまいります。

6つ目は、「地方創生への挑戦」であります。

現在、本市では、市全体を元気にする夢のある取組として「花火産業構想」を官民一体で進めております。花火を核とした新たな産業を創出し、国内のみならず世界進出も視野に入れた構想として、私は地方創生のモデルとも言えるものと考えており、この取組をさらに推進してまいります。

来週24日からは、国内外から多くのお客様を迎え、第16回国際花火シンポジウムが開催されます。このシンポジウムは、「日本の花火」そして「世界の花火」の発展に大きな役割を果たす特別な国際会議であり、「花火産業構想」におけるインバウンド推進の目玉に位置づけられているこの春一番の大イベントであります。「日本の花火」のみならず、この地域の魅力を広く発信する絶好の機会として、ぜひとも成功させたいと思っております。

また、この成功を一つの契機に、今後、本シンポジウムの開催を記念した国際花火大会のような継承事業の開催について検討してまいりたいと考えております。

このほか、本市では、全国500歳野球大会の開催をはじめ、毎月のように様々なイベント等が開催されます。開催にあたっては、観光や物産などを融合させながら、インバウンドも含めた交流人口の拡大に取り組み、さらには、本市への移住・定住につなげてまいります。

また、私は、花火産業構想に続く第2、第3の夢のある活性化構想に取り組んでまいりたいと考えております。大仙市には花火だけではなく、魅力的な地域資源がたくさんあります。例えば、市内外に誇れる農畜産物や優れた日本酒、溪谷などの大自然や森林地帯、史跡、文化財、伝統行事などがあります。

これらが大仙市の強みとして最大限生かし、市全体を元気にする、

市民の皆様が夢を持てるような活性化のための構想を打ち立て、着実に実行してまいります。特に、農業に関しては、通年型農業や、そのための農産物生産工場、教育研究機関の誘致や連携も視野に入れた構想について、前向きに取り組んでまいります。

これら6つの公約のほかにも、災害に強く雪に負けないまちづくりや市民協働の元気な地域づくりを進めるとともに、市民生活の足を守り地域を結ぶ公共交通の充実やインフラ整備、環境保全、地域コミュニティの活力再生、生涯学習、芸術文化、生涯スポーツの振興など、市民の皆様が活力を感じ、安全に安心して暮らせるようなまちづくりを積極的に展開してまいります。

こうした公約も含め、本市が抱える様々な課題の解決に向けた取組を進めるにあたっては、行財政改革を避けて通ることはできません。財政を圧迫している市債は確実に減少しており、財政状況は改善方向に向かっているものの、限られた財源の中で、多様化する市民ニーズに的確に対応していくためには、効果的で効率的な行政システムの推進、これまで以上の自主財源の確保などが重要となります。市民ニーズを確実に捉え、優先順位の高い施策を、ソフト、ハード両面でバランス良く実行してまいります。

選挙中は、市民の皆様からたくさんのお声をいただきました。

市政運営にあたっては、市の施策や事業を積極的に情報発信・PRしながら、市民の皆様をはじめ各方面からの意見等をよくお聴きし、各種の取組を進めてまいります。

また、市内各地域の元気づくりのため、市役所の本庁及び各支所がその拠点となり、市民の皆様との協働のまちづくりを一層推進してまいりたいと考えております。

以上、私の今後4年間における市政への所信の一端を申し述べさせていただきます。

大仙市は8つの地域が1つになった市であります。それぞれの地域が元気にならないと市全体が元気にならないと思っております。

市民目線と地域目線、強い信念を持って、市民の皆様のためのまちづくりを、そして、明日の大仙を拓く新たなチャレンジを、誠心誠意、全身全霊を傾けて進めてまいります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。所信表明とさせていただきます。